

アマダイ通信NO. 127

(Tile fish network letter) 2018年ペラカンサス朱く

知人・友人各位

一夜で妻が要介護1から要介護4、寝返りも起き上がりもできない状態に。突然、ビジネスマン兼老々介護の介護人に。人は環境に順応する動物。だからこそ、長い生物進化のプロセスを経て、文明の華を咲かせる。故郷白神の海と山、新緑や紅葉、白い雪、光る海、逆巻く高波や、風に飛ぶ波の華の自然だけでなく、学生運動で7回入った警察の留置所も、足掛け3年入った中野刑務所の独房も、大腸がんステージⅢb(殆ど治癒する見込みなし)のがん病棟も住めば都。どんな環境でも楽しもうと思えば楽しめる。学ぼうと思えば学べる。残り少ない人生、読者の皆さんと共に学び、共に楽しみたい。

◎妻帰る

8月3日(金)の夜から4日(土)の明け方にかけて妻の容態が急変、寝返りを打つことも、起き上がることも叶わず、介護する者もされる者も、窮地に。仕事をこなしながら、妻の世話に追われる。9日(木)から13日(月)の孫娘との故郷白神素潜りツアーに合わせ、予定通り8日(水)から13日まで、近くの介護施設にショートステイ、一息つく。旅行中にケアマネージャーが必死に世話してくれる施設を探してくれ、ショートステイが終ると、近くの新設の病院に。差額ベッド代1日2万円はきついが、老々介護で共倒れになるよりはいい。しばらくして、近所の別の介護施設にショートステイ。適当な有料老人ホームが見つかるまでショートステイ出来る介護施設を探し、つなごう。5段階ある要介護の重度が二番目の4だから入所が難しい特別養護老人ホームも入所しやすいのではないかとこちらでも申し込む。ショートステイを繰り返す積りで二週間入った最初の施設で、「非人間的な姥捨て山」には住めない、家か病院に戻りたいと妻。大部屋なので訳のわからない人が勝手に入って来る。裸の女の人が食堂でオシッコする。ただ寝てるだけでは悪くなるばかりだと。レビー小体型認知症だ、パーキンソン病だとか言っても、運動機能に問題があるだけで、認知機能にさほど問題がある訳ではない。耐えられないという。

幸い空きが出来て病院に戻り、差額ベッド代2万5千円の部屋に。そんな部屋に長くいるほどリッチではない。必死にリハビリしたお陰か歩行器を使って歩き、トイレも自分で出来るまで回復。あらためて高齢者専門の順天堂江東病院で診て貰う。パーキンソンでも、レビー小体型認知症でもなく、脊椎梗塞ではないかという。色々検査してみるが、脳のCTを撮ると左脳に梗塞、右手足に障害。それなら一晩で突然寝返りも、起き上がりも出来なくなるのも納得がいく。だが、入院先の担当医は脳梗塞にしては運動機能の回復が早過ぎると言う。脳に梗塞があるのは事実だが、真相は藪の中。どうにか家で生活出来そうと、10月26日に退院、爺婆二人の生活が又、始まる。宅配食やヘルパーさん、訪問介護、訪問リハビリ、施設でのデイサービスなど、介護保険のサービスを使うには手続きに時間。取り敢えず🐟の介護でしのぐ。退院当日早朝、近くのスーパーマルエツで買い出し。3種の茸入り、具沢山の塩、醤油、味噌味のスープとオデンを用意、朝10時のアポをこなし、事務所で一仕事の後、病院へ。介護用品を届けに来た介護用品屋の担当者に歩行器とスーツケースを車で運んで貰い、青空の下、車椅子を押し退院。ケアマネージャーと打合せ、

妻の好きなお餅をレンジ、初訪問のヘルパーさんにも手伝って貰い、🐞の「手料理」を食べさせ、夕方6時半の銀座木曾路での会食に駆けつける。珍しく二次会もこなし遅く帰ると、妻は介護ベッドの上で無事寝息。

土曜日、朝はパンがいいというので、一緒にレーズンバターパンを温め、特製スープとカットパイ、自分はコーヒーを淹れ、妻には甜茶を飲ませます。昼は久し振りご飯を炊き、パック入りの鰻の蒲焼きを湯煎、鰻井をつくる。マルエツで買ったほーれん草の煮浸しや白和えも。4時から🐞事務所で「全共闘50周年」の月一の打合せと飲み会。レトルトカレーのパックを台所に出し、3時に家を出る。酔っ払って帰ると、無事介護ベッドの上、2日目もどうにか終わる。日曜日はゴルフ。介護人にも息抜きは必要。前日の昼4合もご飯を炊いたので、見舞いに来るといふ息子の分までチャーハンをつくりおき、二週間振り関越道を嵐山小川まで走り、ホームコースの小川カントリーへ。秋晴れのゴルフ日和、2組6人で楽しく歩くゴルフ。合間に「朝作っておいたチャーハンを温めて一緒に食べて下さい！他にスープも3種あるので、どれか温めて食べて下さい。昨日の夜の残り物もあります。二人で一緒に食事して頂ければと思います。」「一緒にお昼食べて貰いましたか？朝お米を2合磨いでおきました。炊飯器で炊いて、好きな『井の素』を温めてご飯にかけて一緒に食べて下さい。温めるだけで食べられる煮魚や焼き魚のパックも冷蔵庫に入っています。パック入りのサラダなども冷蔵庫に入っているので、適当に食べて下さい。余裕があったら、掃除機を使い、風呂を流して、風呂掃除して貰えると嬉しい。」と息子にメール。息子は疲れたと言って顔を出さず。結局妻は夕飯も特製チャーハンを食べる。自分のことで手一杯の子供を当てにしていけないと、あらためて確認。携帯片手のゴルフでは思うようにスコアは伸びず、51、56と今回も100を切れず。翌朝出勤前に掃除機をかけ、風呂掃除、孫息子と保育園に同伴出勤後、出張。

東京のど真ん中での生活。近くの24時間営業のマルエツでなんでも手に入り便利。歩いて数分の所に病院があり、聖路加や昭和大豊洲病院などの大病院も近い。介護施設も幾つか近くにあり、銀座まで自転車やバスで15分ほど。東京駅も近く、通勤や出張も楽。それなりの対価も払うが、仕事しながら老々介護するには都合がいい。

◎HARUMIFLAG・・TOKYOがど真ん中から変わる！

11月1日(木)「TOKYOが、どまんなかから、生まれ変わる HARUMIFLAG」と、日経新聞のど真ん中に、見開き2ページの大広告。🐞の住むマンションの真ん前で建設中のオリンピック村が、選手村として活用された後、5632戸のマンションに変身。三井、三菱、野村、住友の財閥系不動産を頭に、オールジャパンの大手デベロッパー10社のチームが、東京のど真ん中に全く新しい街をつくと派手な宣言。大会後、床、壁、天井の内装を剥がすだけでなく、風呂やトイレ、キッチンなども総取替え、全く新しいマンションとして売り出し、一部は賃貸にするという。勿体ない話だが、そうしないと食べ物や体臭などから移った匂いやらが消えない。△▽競技で〇〇メダルを取った□□選手の住んだ部屋として売り出した方が、プレミアムがつきそうな気がするが。

これだけの新築マンションが一気に供給されれば、目と鼻の先に住む🐞、マンションの資産価値が気になる。晴海では他にも千戸単位の超高層マンションの再開発計画が進み、隣の勝どきや豊海近くでも各々数千戸単位の超高層マンションを含む再開発計画が進む。

少子高齢化で日本の人口は減少し、東京の人口もいずれ減る。どう見ても供給過多だが、東京都心部は生活するには魅力的で、日本中から、世界から人を呼ぶことが出来るということか？秋田から上京、長らく多摩に住んだ🐾も現にここにいる。

妻が要介護4で介護施設や老人ホーム暮らしとなれば、一人で85平米の3LDKのマンションは広過ぎる。現に一部屋は物置になっている。幸い不動産バブルで東京湾岸の高層マンションが値上がり、中古マンションでも新築分譲時より値上がりしている。今の内に、一回り小さい手頃なマンションに買い替えれば、値上がり益を現実化、少ない老後資金を多少は積み増せる。老いた脳みそを働かせ、目論む🐾。

🐾の捕らぬ狸の皮算用を察したか、要介護4でもう家に帰ることはないと思った妻が、家に帰りたい一心からか？介護施設に戻りたくないからか？病院で必死にリハビリ。歩行器を使ってどうにか移動出来、トイレも一人で出来るようになる。築10年に満たない新しいマンションで、玄関の上がり框も低く、トイレや浴室など要所に手すりもつき、一応バリアフリーにはなっているが、要介護4の生活のためにはあちこち手すりを増やすなど、手を入れることに。🐾の目論見は外れ、狸の皮が手に入るのはいつのことか？

◎時代を超えて

毎朝妻と食事、孫息子と「同伴出勤」して仕事に向かうが週に一回くらいは遠出もする。伝手を頼り、夕方5時に支社ビル建て替えの件でJR東日本の新潟支社に。30分ほど打合せ、新潟駅前の鯛家で顧問先と鯛めしと白鳥賊の姿造り、松茸とたらば蟹の炙りで2時間ほど。7時40分発の新幹線で帰る。翌週もJR西日本の金沢駅前のバスターミナル跡地の再開発ビルの件で清水建設の北陸支店に4時に顔を出し、5時から駅前の割烹へ。治部煮で顧問先と2時間ほど飲み、新幹線ホテルで爆睡。仕事に行ったのか？飲みに行ったのか？わからないくらいだが、大学受験で3段ベッドの2等寝台車で一晩がかりで上京してから半世紀。新潟まで2時間、金沢で3時間、秋田でも4時間ほど。日帰り出張で、土地の匂を味わい新幹線ホテル。創業当初、鹿や狸を運ぶのか？と言われもした東北や上越の新幹線も、早ければ乗る。日本も狭くなった。

仙台で常磐道4車線化の件で午前中東日本高速東北支社と仙台工事事務所の2ヶ所で挨拶、こまちで秋田へ。プロバスケットボール用にJR秋田支社が駅前につくるゲートアリーナと秋田市立病院建替えの営業、秋田駅ビルで切りタンポで軽くやって帰ることも。介護人兼任となったので、早朝からの仙台、秋田日帰り出張は無理になったが、すごい時代になった。実りの秋の秋田では黄金の穂波をコンバインで刈り取り中。半世紀前、鎌と素手で刈り取り、刈り取ってハサで干して乾燥した稲束は馬車や牛車で運ぶ。隔世の感。朝日新聞を手にとると、「築100年超、退去に揺れる京大・吉田寮」の記事。

京都帝国大学時代の1913年(大正2)年に出来た吉田寮は、60年代には旧制高校の自治寮の伝統を引継ぐ東大の駒場寮、三鷹寮などと共に学生運動の拠点となった。60年代に全国の大学の学生寮が全共闘運動の拠点となったことで、80年代から古くなった学生寮を建て直す形で自治寮が廃止され、三鷹寮も廃寮となる。1930年代に旧制第一高等学校の寮として建てられた、頑丈な鉄筋コンクリート造の駒場寮も2001年に学生退去の強制執行が行われ、今に残る自治寮は京大吉田寮と熊野寮のみ。耐震性を理由にするが、頑丈な鉄筋コンクリート造の駒場寮も取り壊したのだから、木造故の耐震性ではなく、自治寮

という寮のシステムが問題なのだ。

率先して三鷹寮廃寮、次いで駒場寮が壊され、吉田寮と熊野寮は自治寮として今に残る。東大と京大の中央権力に対する位置の違いがそこにはある。東大は権力そのもの、京大は権力に距離をおく。自由と反骨の精神が、東大よりも京大からより多くのノーベル賞授賞者を生む。京大吉田寮と共に京大の自由と反骨の精神が失われるとすれば、自由闊達を精神を育んだ自治の学校としての自治寮が失われるのと同様、大いなる損失。時代を超えて残すべきものがあると嘯く。権力に頼り、忖度の世界に生きる。

◎ヤマゴボウ巻き

金曜日夕方すし屋で会食、メに巻物をと、ヤマゴボウ巻きを手巻きで頼む。口にほおばり、思いっきり噛むと前歯に違和感。一瞬？と思うが、前歯が根元から欠けている。鏡を見ると間が抜けた感じ。土日と歯医者様は休み。月曜日、孫息子と同伴出勤しようとする、ジージ歯どうしたの？と、3才の子でもおかしいと思うよう。コンビニでマスクを買うが、かけたり外したりは面倒。歯医者に残骸も持参、かつて虫歯を治療、土台を残して柱を立て被せたが、柱が折れたという。支柱を再建、被せ物をするに。即日型を採り、一週間で修復。治療をしたことがある歯だということをつっかり忘れていたので、随分前に治療した歯だ。長く働いてくれて感謝。自分の歯の土台が残り、支柱を立て前歯を再建したということで、曲がりなりに自分の歯を維持出来た。10年以上前に入れたインプラントが下あごに2本、上あごに部分入れ歯が2本。あとは自分の歯だ。多いのか少ないのか？大事にしたい。次回すし屋で山ゴボウ巻きを食べるのは勇気が要る。

◎房総に隠れ家？

3才の孫息子和君と毎朝楽しむ「同伴出勤」。途中の信号で同じマンションに住む同級の女の子、生まれも早く頭一つ大きい美人のアンちゃんと会って盛り上がり。太鼓橋を渡った下り坂の信号を右折する所で滑って転ぶ。腕に擦り傷、血が出て大泣き、一つ学習。保育園で担任の先生に傷を水洗いして貰い、バンドエイドを貼って貰ってしばらく泣く。初めてまともに転んで、かすり傷とは言え出血までしたから、ショックだったんだろう。少し痛い思いもして、段々学習し、成長していく。そんな孫達の成長を眺めながら、爺はフェードアウトしていく。10年、20年と長生き出来たら孫達の大学入学や結婚にも立ち会えるかも知れないが、さて、どうか？脳強、体強で頑張れるか？

ビルの谷間の湾岸の運河にかかる橋の上で、エイがいる！クラゲだ！と爺の足も止め、朝の通勤の流れを乱す和君。白神の海で春秋は魚釣り、夏は一日中素潜り、ヤスでアイナメを追い、サザエを手づかみ、アワビをナサシで剥がし、天草やモズクを採る。孫が不憫だ、本物の海で遊ばせたい！思いが昂じ、日曜日のJR外房線特急わかしおに乗る。御宿まで2時間、リゾート専科の不動産屋ヒマワリ房総店へ。南房総市や鴨川などの駅から歩ける、3、40平米くらいの手頃なマンション、出来れば磯浜と砂浜が両方あり、水泳も、磯遊びも、素潜りも出来る浜辺の近くと。孫に自然の海をふんだんに体験させ、豊かな情操と健康をプレゼント出来れば、そして爺の安らぎの場ともなればと。

ヒマワリのイケメン店長に1時間少し走って貰う。JR内房線江見駅脇、海を望む高台の140戸、87年築のマンションを勧められる。東急コミュニティーが常駐管理、そこそこの

規模で、ちょっとしたロビーや大浴場、屋外プール、無料の駐車場も完備、エレベーター2台も取り替えたばかりだが修繕積立金が6800万円ある。よく管理されている。アパートが少ないので、近くの先端医療で有名な亀田病院の職員とか、年金生活者など常住の方もいるようで、懇親会の誘いの貼り紙も。娘達が持つ越後湯沢の岩原スキー場脇マンションと築年数は同じくらいかと思うが、広いロビーの他にスキー用のロビーとロッカー、大浴場、温水プール、ビリヤード、卓球台、食堂などのサービスは、461戸と規模で勝る岩原の方が数段上だが、駅脇で地元のスーパーが直ぐ、その横に居酒屋、歩いて10分程の所に街道を挟みホームセンターのコメリと地場スーパーのオドヤが向き合い、街道沿いにはレストランも幾つか。海沿いを車で15分の鴨川駅前にはイオンをはじめ、沢山お店もあり、買い物や食べるのには困らない。鴨川シーワールドやマザー牧場は孫達が大喜びするだろう。波祓りの道路や旬のフラワーロードのサイクリングは爺も楽しめそう。部屋も改装にお金がかかりそうだが、指値してみよう、鴨川からバスで帰る。日曜の午後だからかアクアラインが混み、東京駅まで2時間半。


30万円値下げ、350万円で長らく売りに出ていた43平米、築30年弱、南房総市江見駅脇、オーシャンビューの3階、全140戸、管理組合があり、管理費滞納なしのマンションを250万円で指値。意外にも翌日不動産屋から商談成立の電話。熱海ではこんなに安くは買えないだろうが、改装や家財道具の購入で、4百万はかかりそう。乏しい老後の備えを減らすのは痛いだが、孫達に豊かな自然環境と嬉しい思い出をつくってやりたい。情操豊かな子に育ち、社会有為の人材に育ってくると尚、嬉しい。一緒に素潜りや魚釣り、裏山で切り株に腰下ろし、小川のせせらぎに足浸し、木漏れ日で一緒に本も読みたい。死に逝く老人よりも、これからを生きる子供のために役に立つ方がお金も嬉しいだろう。

晩年を少年時代と同じ海と山のある町で暮らせるのも嬉しい。爺の隠れ家か？隠居部屋か？爺棄て小屋か？湯沢岩原の冬を足せば白神の四季に同じ。少年に還り、土に戻る。江見の小さな漁港に降り、岸壁を歩く。護岸の外の岩場に釣人。エサにサザエを使っている。歯の鋭い鯛や黒鯛狙いか？波の下、白神の海で消えてしまったぎばさ(ホンダワラ)が揺れる。近づくとサッと姿を隠す潮溜まりの小魚達

のニュージーランド紀行 (I)

('16.05.01~08, トラピックス, 新・まるごとニュージーランド8日間)

① 羊がお出迎え

ニュージーランド航空0090便はほぼ満席の状態、18時30分に時差3時間、ニュージーランド最大、人口の3割、約124万人が住む最初の首都、北島のオークランドに向け、10時間40分の空の旅に出発。物見高いは夕方からのフライトというのに、窓側の席をリクエスト。最新の9列シートの中型機ボーイング787、日航や全日空ではウォシュレット付きだが、全日空との共同運航でも、ウォシュレットはない。飛び立って程なく機内食。ニュージーランドビーフを選ぶ。緑色の細い缶のニュージーランドビールはまずまず。もう1本頼むが貰えず。リクライニングの他にフットレストも付いて寝やすい筈だが、寝酒のビールが足りないのか、寝つきが悪い。何度目かに目を覚ますと、機外は明るい。窓外に目をやると羊雲がお出迎え！さすが羊の国だ。見渡す限りの羊雲の下に潜ると、戸建や中低層ビルの緑の多い綺麗な街並みが見える。オークランドだ。

一旦海へ出る。高い樹でコースが区切られた緑濃いゴルフ場から進入する、と思ったのだが牧場らしい。羊も牛も見えないが、白砂のバンカーも、グリーンの円弧とカップの旗も見えない。小振りだが近代的な空港に、シダの葉をデザインした白と黒の機体が停まる。入国審査を経て、荷物受け取りに並ぶ。オーストラリア同様ニュージーランドも動植物の検疫が厳しい。添乗員の菊池さんが機内で何度も入国書類の書き方を注意。麻薬調査犬が何匹も徘徊。チェックが厳しいからか、荷物検査に長蛇の列。味噌汁、カップラーメン、乾きものだけでなく今回はパック詰め惣菜もツマミに持ち込むが、何のおとがめもなし。

総勢 14 人、24 人乗り中型バスに乗り人口 7 万、この国第 2 の湖、ロトルア湖の畔にある、北島でオークランドに次ぐ観光都市に向かう。14 世紀初め、マオリ人探検家が狩りの最中、犬が魚を啜って帰って来たのを見てロトルア湖があるのを発見、マオリ人が住み始めたという。マオリ人の文化が色濃く残る町。なだらかな丘陵に緑の牧野が続き、境界だろうか？木の列が起伏に沿って波打つ。土中から顔を出すコンクリートは井戸だろう。牧野に孤立立つ大木は夏に牛や羊に安らぎの場を与えるのか？いつか見た、イギリスの農村の風景に似る。18 世紀に入植して以来、イギリスの植民者はポリネシア系の原住民を時に騙し、時に争って、豊かな原生林を奪い取り、耕地と牧野に変えた。国土の 8 割は原生林、そこでマオリは狩猟採集生活をしてきたが、原生林は今や国土の 2 割。彼ら欧米からの入植者は声高に他の大陸からの外来種の排除を叫ぶが、ニュージーランド本来の在来種の保護を主張するなら、先ず彼ら自身が、自分達が持ち込んだもの全てと共に、元いた大陸に帰るべきではないか？目にする松も杉も、ナラや柳、ポプラやユウカリも、牛も羊も、山羊も鶏も一緒に。

デザートとコーヒー付きのポテト&チップスの昼食を楽しむ。バーカウンターで 1 本 7 ドルの地ビール小瓶を 2 本買って飲む。広い川の対岸には 4 つのユニットで出来た大きな火力発電所。ニュージーランドは水力発電が主力というが、この辺りは石炭を生産する。カフェの駐車場に停まる 11 台の車は日産と現代が 3 台、トヨタが 2 台、マツダ、アウディが各 1 台。この国で車の組み立てを止めて久しく、全て輸入車。日本にバターと羊毛を売り、車を買ってくれる。国道に沿って複線の鉄道が走り、途中から発電所への？引き込み線が分かれる。途中ワイトモ鍾乳洞で土蛍を見学する。マオリ人が管理、案内も腕に入れ墨を施した青年。去年の夏、冬のオーストラリアでも見たあれだ。蚊によく似たキノコバエの幼虫が、虫を捕食するために粘り気のあるクモの糸のような糸でつくった巣を垂らし、マルピーギ管という排泄管を蒼く光らせて昆虫を誘き寄せ捕獲、餌にする。幼虫でいる期間は半年以上あるのに、成虫になると 3 日間、生殖のためだけにしか生きられないという。オーストラリアでは原生林の中の小さな洞窟に住む土蛍が光るだけでなく、洞窟の外の草むらでも光っていたが、結構歩いてたどり着いた、低い洞窟の奥でようやくかすかに光るだけ、がっかり。少し戻り下に降りる。洞窟の下を川が流れ、船に乗る。真っ暗闇を船で進むと、天空に光る星の様に蒼い光が天井全面を覆う。幻想的で綺麗、圧巻だ。

② そんなに急いで、何処へ行く？

土蛍見学後ロトルアへ。道路工事が結構多い、片側交互通行で舗装工事。日本では信号と手を振る人形がする一時停止を、人件費の高い国にしては人間がしている。速度制限 100 キロメートルの一般道が時々車線の交互通行になる。交通量が少なければ、制限速度を

上げ、橋は一車線の狭い橋にして、建設費を節約出来る。人口密度が少ないから、民家の立ち退きなどの制約が少なく、より真っ直ぐに、カーブも大きく取って制限速度を上げ、移動の生産性を上げられる。急なカーブの看板には 65、75 などと、日本の一般道の制限速度をはるかにオーバーする数字を書き込んでいる。外国人はこのスピード感についていけず、レンタカーを借りると渋滞の原因になる。交通渋滞がないので、4 台つながると渋滞と言われると添乗員の菊池さん。少子化日本の道造りの手本か？土地が安いから庶民も広い家に住め、交通渋滞もない。少子化、人口減少も悪くない！？グロスも大事だが、要は個々人の裕かさ、一人当たりの生産性ではないか？

ロトルアでは先ず、湖に突き出す半島を利用した市民の憩いの公園、ガバメントガーデンへ。中央に尖塔を持った赤い屋根と白壁、木製の縦の仕切りのある窓が特徴のチューダー朝様式のかつての湯治場が博物館に姿を変え、美しく佇む。周りには芝生と色とりどりの花が咲く花壇、ゴルフコース、ボーリング場、ポリネシア温泉などが点在。火山島の、しかも世界でも珍しい大地熱地帯。あちこちから白い湯煙が上がり、黄色く硫黄の臭い。

次いでロトルア湖畔へ。遊覧船乗り場には遊覧飛行用か 2 機の白い小型飛行艇まで係留され、湖の中心にはマオリの要塞があった伝説の島、モコイア島が緑に浮かぶ。島に住む青年ツタネカイが吹く笛の音を頼りに、湖畔に住む娘ヒネモアが夜毎カヌーで訪れたという。名にし負わば、いざ言問わん都鳥よ、と業平が詠んだ頃の話か。その湖面を、数羽の黒鳥が寄りそって泳ぎ、青い空を都鳥が白く舞う。

見学後夕食。8 人乗りゴンドラに乗り、スキー場の中腹にある、夜景の美しいレストランでバイキングの夕食。添乗員の菊池さんは中国人の団体に先を越されると食べたい物が食べられないからと先を急ぐが、他には誰もいない。海鮮が美味しいと勧められるままに、ムール貝やカキ、海老、ビーフやラムのグリルを肴に、地ビールジョッキ 9 ドル、白ワイン 10 ドルを夜景と共に楽しむ。人口の希薄な故か、夜景は華やかさと迫力には欠けるが、お上品だ。因みに赤ワインは 12 ドル。ついでに皆で外に出て、あれが天の川、十字星と星空も楽しむ。2 日目がようやく終わる。(続く)

◎日本の半導体研究の今昔・・東大三鷹クラブ第 141 回定例懇談会のご案内

昭和 29 年 3 月、三鷹寮東寮に入る。1 部屋 8 人で 2 部屋毎に勉強部屋がある。寮は古い三鷹市役所に隣接し、野球グラウンドや卓球台等もあって、決して美しいとは云えませんが、全国から田舎者の「元・秀才達」が集まった楽しい大学生活のスタートでした。

毎朝、「囚人バス」と近所の人から言われるような薄汚れた淡青色の超中古の学生用バスで井の頭線の三鷹台駅まで送ってもらう。まだ下駄履きの通学生がいた時代。また、大きな寮食堂では高価な牛肉や豚肉ではなく、「鯨肉」が主体のメニューで空腹を満たしていました。当時の狂歌“食堂は南氷洋と直結し、酢豚もスゲイ味がするなり”。今でも同室で暮らした者が集まって「酢鯨会」と称する会を作り 2 年毎に「夫婦づれ」OK の懇親会を開いています。当番は回り持ちとし、全国のいろいろな名勝地を訪ねます。先日は久方ぶりに駒場で開催しましたがこの年齢になりますと大体 10 人前後の会になっています。

私と中山君は同じ部屋で生活を共にし、同じ理科一類に入り、私は機械工学科へ進学、彼とは別の道を進むのですが、彼の「秀才ぶり」には全く驚かされました。私もかつては

「大学教授」を志し、夢見ていましたが、中山君を見て「秀才のケタが違う」ことに気がつきました。勉強の仕方、理解力、行動力等々すべて異なっていて「こうゆう人こそ大学教授になるべきだ」と思うようになりました。彼は本人の計画通り理学部物理学科へ進み、博士にもなって大学に残り、「電磁気学」という難しい学問に取り組み、その進歩と教育に貢献しました。彼は又、社会問題にも関心を持ち、常にきびしい、まじめな意見の持ち主でした。マージャンや野球等をやっている彼の姿を見た事はありません。要するに彼は「秀才中の秀才」でした。彼が理科一類約 500 人の中で成績が 2 番だと言って「チョキの指」を示した姿が今も忘れられません。

中山君は、大学院では植村泰忠先生の研究室に入りました。植村先生は東芝研究所から東大に戻られ、後に半導体研究の分野でノーベル賞候補にも上ったと聞きました。そうした経緯を含め、日本の半導体研究を総括した興味深い話が聴けるものと期待しています。

(昭和 29 年入寮 三原篤 記)

日 時 : 平成 30 年 11 月 8 日 (木) 18 時 30 分～21 時

講 師 : 中山 正敏 九州大学 名誉教授 (昭和 29 年入学)

場 所 : 学生会館本館 301 号室 (千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931)

会 費 : 6000 円 (会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)

二次会 : 別途 有志による二次会を、すずらん通の中国料理店 SANKOUEN にて開催予定

定 員 : 40 名 (先着順: 定員を超えない限り特に連絡は致しません)

(有) ティエフネット: ワーク Email : tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎出前寄席

今年も世界から交換留学生を迎え、三鷹寮で留学生歓迎会。久し振り寿司桶持参で三鷹寮へ。アルコール抜き、ゲームで学生は盛り上がるが、飲ん兵衛の🍷は今一盛り上がれない。途中で抜け出し、府中の酒屋兼飲み屋で出前の落語会を終えた春風亭昇吉君 (2003 年入寮) と合流、新宿で一杯。皆さんも昇吉君を招いて、出前寄席は如何?

人気テレビ番組「笑点」の司会者春風亭昇太の弟子、東大経済学部卒の異色の落語家も真打昇進まで後 1、2 年、実力十分だが、まだ出番が少ない。売れっ子になってからでは中々気軽に呼ぶという訳に行かないかも知れません。先物買いで如何ですか? あなたのカフェやレストラン、居酒屋で、ご近所や仲間近くで近くの公民館で、皆さんで生の落語を楽しみませんか? 東大卒ということで、学習塾でというのも如何ですか? 🍷にご相談下さい!

◎終わりに (結びに代えて)

突然介護の話が多くなり恐縮だが、世の中が便利になり、介護保険制度が出来たとは言え、家庭での老々介護は結構大変。二人で分担していた掃除、洗濯、買物、食事などの家事を一人でしなければいけない。病院へ付き添い、役所や施設、関係者との打ち合わせにも追われる。比較的自由に時間を使える自営業だからどうにか凌ぐが、時間で拘束されるサラリーマンだと大変だ。仕事に支障を来す、周りに迷惑と仕事を止めると、収入の道が閉ざされ、共倒れの危機。🍷も時間の拘束から自由だとは言っても、結果は厳しく問われる。皆さんに支えられ、相手の役に立ってこそその自営。読者の皆さんに多謝! 再見!